

日本写真印刷株式会社

「2016年3月期第1四半期決算説明会・カンファレンス」

質疑応答の概要

(2015年8月6日開催)

■ 2016年3月期第1四半期の実績について

Q1. プレゼンテーション資料4ページの営業利益の増減分析によると、第1四半期はデバイス事業における生産性の改善およびコストコントロールが収益改善に寄与しているが、この具体的な内容は？また、これらの効果は、第2四半期以降にも期待できるものと考えて良いか？

A1. 当社のデバイス事業は、季節要因により第1四半期および第4四半期に需要が減少する。前期の第4四半期は需要がピークを迎えた第3四半期との落差が激しく、十分なコストコントロールが叶わなかった。これに対して、この第1四半期には需要量に合わせた固定費のコントロールなどがしっかりと出来た。これから需要の拡大期を迎えるが、引き続きリーナな事業運営を行っていききたい。これに加えて、歩留りの改善などの変動費率引き下げの成果をどの程度出せるかが、今後のチャレンジである。

Q2. 2015年4月に新設したライフイノベーション事業は、順調に進捗しているか？

A2. まだ業績への寄与は少ないものの、地道に取り組んでおり、計画通りの進捗。

Q3. 第1四半期は利益面で想定を上回った一方、第2四半期はデバイス事業の需要が弱含みとのことだが、上期全体としては営業利益の見通しに変化があるか？

A3. 上期としては、期初に公表した営業利益20億円の見通しを継続している。

■ AR Metallizingの買収について

Q4. 今回買収したAR Metallizingの業績拡大に関して、プレゼンテーション資料15ページの「シェア拡大」「地理的な拡大」「対象市場の拡大」「新製品開発・新たな価値創出」のうち、売上高への寄与をもっとも具体的に見込んでいるものはどれか？

A4. 「地理的な拡大」に期待できる。AR Metallizingは北米市場とヨーロッパ市場に強みを持つが、アジア市場には十分に進出しておらず、当社の販路を生かすことが有効と考えている。また、アフリカや南米市場にも大きなポテンシャルがある。これらの「地理的な拡大」を通じて「シェア拡大」を推し進めることになる。

■ 今後の事業展開について

Q5. フォースセンサーなどの新たな分野について進展はあるか？ 来期の業績に寄与する可能性はあるか？

A5. フォースセンサーなどの製品開発は計画通りに進んでいる。しかし、当社が提供し得る製品が市場においてひとつの領域を形成するタイミングは不透明であり、来期早々に業績に寄与するというシナリオは少し早いかもしれない。

Q6. 第5次中期経営計画では350億円のM&A予算があると認識しているが、今回のAR Metallizing買収により半分弱を使用したと思う。残りの予算については、今回のAR Metallizingを核に引き続き蒸着紙関連の買収を行うのか、あるいは、異なる分野の買収を行うのか、どちらの戦略を持っているか？

A6. 後者のM&Aを考えている。産業資材事業やデバイス事業を中心に考えていきたい。現在の当社事業はボラティリティの高いIT市場向けに偏重しており、これを是正するためにM&Aを活用する戦略である。

以上